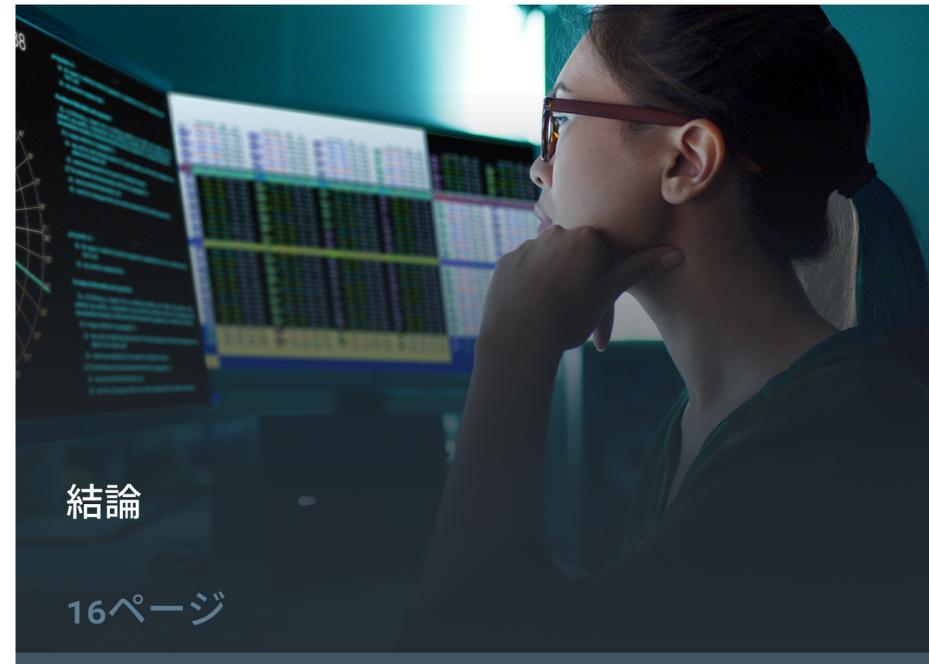


APAC地域における ハイブリッドおよび マルチクラウド管理の 成熟度

この地域で遅れをとっている点、先行
している点、そして改善が重要な理由

目次



はじめに

目的

TechTarget の Enterprise Strategy Group と Infoblox が最近実施した主要な市場調査では、どの組織でもハイブリッドおよびマルチクラウドの運用を改善し、それに伴うビジネス成果を向上させるための、具体的で実行可能な手順があることが明らかになりました。

この電子書籍の目的は、アジア太平洋（APAC）地域を拠点とする個人や組織からの回答を、その他の地域の同業他社と比較し、さらに深く掘り下げることです。さらに、APAC 地域でハイブリッドクラウドおよびマルチクラウドのリーダーになることが、同地域の他の成熟度の低い組織と比べて同様に大きな利点をもたらすかどうかを理解することも目的としています。

注目すべき調査結果

APAC 地域でより成熟したハイブリッドおよびマルチクラウドの運用を行っている組織は、ビジネス成果で同業他社を大幅に上回っています。



リーダー組織は、より効率的：管理業務が改善されたことにより、昨年、クラウドにかかる費用を初期段階の組織よりも 20.5% 削減できています。



リーダー組織は、自社製品をより早く市場に投入：リーダー組織の 41% が、通常、市場に先陣を切ると答えたのに対し、初期段階の組織ではわずか 11% でした。



リーダー組織は、クラウドユーザーの満足度を高める：クラウドホスト型ワークロードに関連する従業員満足度の目標を上回っていると回答した人の割合は 2.2倍（61% 対 28%）、クラウドホスト型ワークロードに関連する顧客満足度の目標を上回っていると答えた割合はほぼ 2倍（61% 対 34%）でした。





APAC 組織のハイブリッドおよびマルチクラウドの成熟度に関する、他の地域との違いについて

ハイブリッドおよびマルチクラウド管理の成熟度の現状

市場の状況を評価するため、Enterprise Strategy Group は、クラウド環境の管理に関する、人材、プロセス、技術に焦点を当てた調査を行いました。これらの質問に対する回答に基づき、Enterprise Strategy Group は、参加組織がさまざまなベストプラクティスにどれだけ適合しているかを判断しました。最も成熟している組織はリーダー (Leading) と指定し、次は発展中 (Converging)、成長途上 (Emerging)、初期段階 (Nascent) と続きます。

Enterprise Strategy Groupの分析では、組織が成熟したクラウド管理の属性や実践を有しているかどうかを評価するために、ポイントベースのスコアリングシステムが利用されました。組織は成熟度に応じてポイントを獲得することができ、最大 105 点の成熟度の点数を獲得できます。

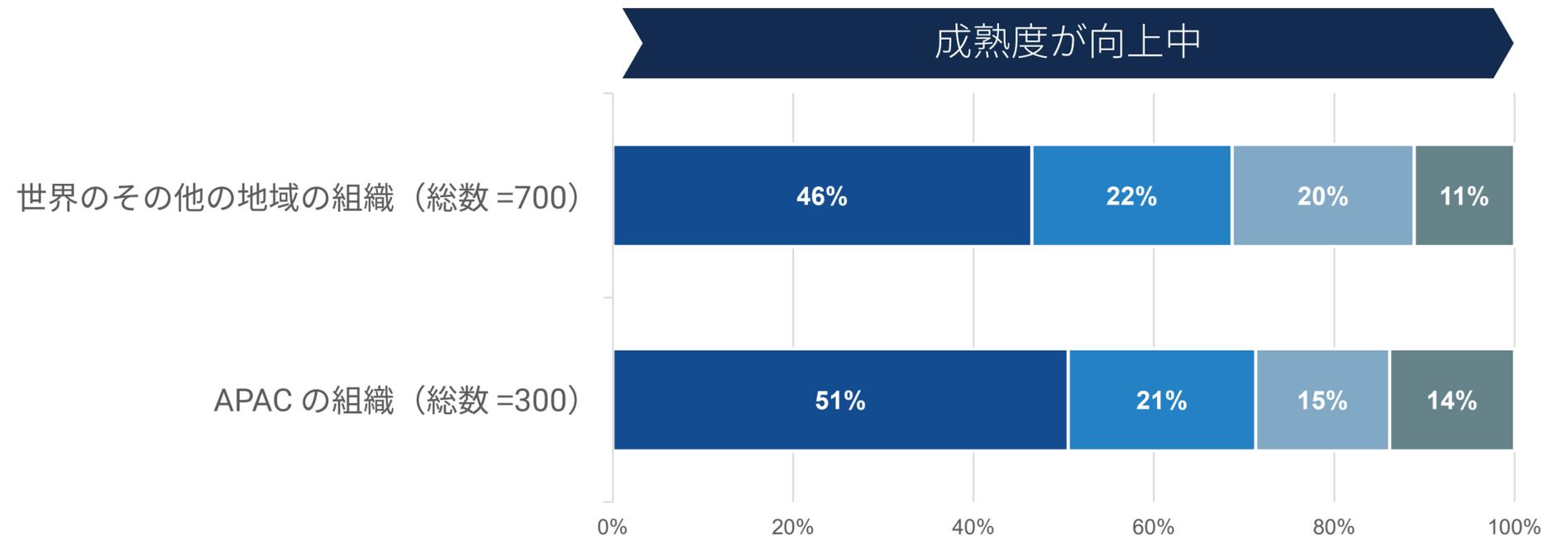
評価される属性と実践には次のものが含まれます。

- 組織がネットワーク、セキュリティ、クラウド運用の担当で構成される、クロスファンクショナルな、クラウドプラットフォームチームを設けているか。
- 組織がエンタープライズグレードで、クラウドニュートラルなネットワークソリューションを活用しているか。
- 組織が幅広いセキュリティのユースケースに DNS を使用するなど、セキュリティソリューションに対して多層防御アプローチを採用しているか。
- 組織がクラウド内で NetOps と SecOps の両方のワークフローを広範囲で、インテリジェントに自動化しているか。

APAC 地域の組織の成熟度を世界の他の地域と比較すると、世界規模でかなりの均一性が見られます。しかし、APAC 地域の組織は、最も成熟度の低い層 (51% 対 46%) に属する傾向が高いと同時に、リーダー組織に属する割合もわずかに高い (14% 対 11%) ため、APAC 地域の組織は、ハイブリッドおよびマルチクラウドの成熟度レベルという点でより大きく分かれている傾向があります。

組織のハイブリッドおよびマルチクラウドの管理成熟度

■ 初期段階の組織 ■ 成長途上の組織 ■ 発展中の組織 ■ リーダー組織



ハイブリッドおよびマルチクラウドのリーダー組織と他のグループとの違いは？

Enterprise Strategy Group のハイブリッドおよびマルチクラウド成熟度モデルは、人材、プロセス、技術にまたがる多面的なものです。他の成熟度グループとリーダー組織の間には、次のような重要な違いがあります：



一体化したクラウドプラットフォームチームを構築：

ネットワークチームとセキュリティチームを組織のクラウド運用のためのセンター・オブ・エクセレンスの一部として統合することで、効率性、柔軟性、セキュリティの面で大きなメリットを得ることができます。これらの2つのチーム間の従来のサイロ化を解消することで、組織はより良く共同作業が行え、目標の調整が促進されるため、プロセスの効率化と意思決定の迅速化につながります。成熟度モデルの観点で、これらの分野にまたがるハイブリッドな役割の創出や共同作業の頻度を増やすなど、チームを統合するために取られた具体的な措置、両方のチームで使用する共通のツールを導入した組織の傾向、クラウド環境における拡張性、信頼性、セキュリティ、パフォーマンスに関する組織の要件を満たすことに焦点を当てた部門横断的なクラウドまたはプラットフォームのエンジニアリングチームの設立などの組織の進捗状況を評価するための質問が含まれています。



エンタープライズグレードの、クラウドニュートラルなネットワークソリューションを使用：

サードパーティが提供する DNS、DHCP、IPAM (DDI) などのソリューションは、堅牢な管理機能を備え、動的なクラウド環境でネットワークリソースの効率的なプロビジョニング、割り当て、追跡を可能にします。単一プロバイダーのインフラでのみ動作するクラウドサービスプロバイダー (CSP) が提供するツールとは対照的に、マルチクラウド運用のために設計されたツールを活用することで、組織はクラウド間の一貫性を強化でき、アジリティ、信頼性、パフォーマンスを向上させることができます。これらのソリューションが提供する中央管理機能とレポート機能により、ネットワークインフラ上での可視性と制御が向上し、コンプライアンスへの取り組みが簡素化され、運用上の人件費を削減できます。



クラウドセキュリティソリューションにおける多層防御アプローチを採用：

成熟度モデルでは、組織が、IaaS プロバイダーが提供するクラウドセキュリティと監視ツールだけに依存しないことが推奨されています。これは、組織ごとに異なる特定のセキュリティポリシー、規制上の義務、ガバナンス基準があり、クラウドプロバイダーが提供する以上の追加のセキュリティ対策が必要になる可能性があるためです。特に、許容範囲の使用ポリシーの適用、マルウェアの検出と阻止、インシデント調査や脅威ハンティングなど、さまざまなセキュリティのユースケースで DNS を使用することが、組織の属性として成熟度モデルで評価されます。



クラウドにおける NetOps と SecOps の両方のワークフローを自動化：

自動化により、手作業と人為的ミスが削減され、組織はネットワークインフラとセキュリティサービスをより迅速かつ一貫して展開、管理、拡張できるようになります。この柔軟性により、変化するビジネス要件やセキュリティの脅威に迅速に対応できるようになり、技術チームや開発者などのステークホルダーの生産性も向上します。

これらの4つの組織的属性を総合的に考慮することで、どの組織がハイブリッドおよびマルチクラウドの成熟度モデルのどこに位置するかが決まります。成熟度を高めたい組織は、まず第一にこれらの原則との調整をさらに推進することを目指すことが推奨されています。

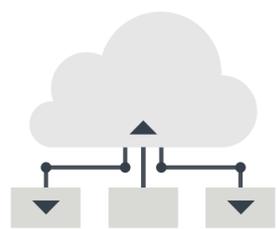
APAC地域のネットワークチームとセキュリティチームは、クラウド戦略に関して協力する機会が少ない

チーム間の協調関係は、Enterprise Strategy Groupの成熟度モデルの構成要素の一つです。その理由は簡単です。これらのチームがうまく連携すれば、組織はセキュリティ対策をネットワークインフラに統合し、問題発生時にインシデント対応を調整し、ツール、プロセス、知識をより効率的に共有して、作業の重複を減らし、お互いの強みを活かすことがもっと簡単になるからです。

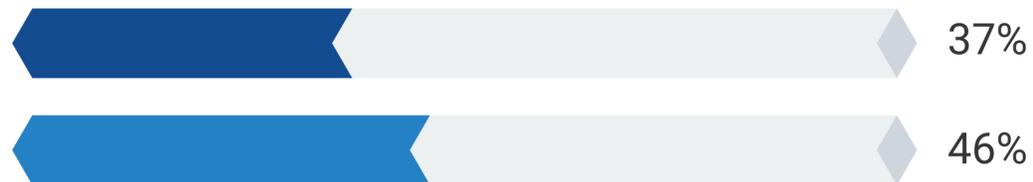
APACの組織は、いくつかの重要な分野でチーム間の協力環境が不十分であると報告しています。まず、APACの回答者のうち、クラウドイニシアティブを開発する際にチームがに密接に協力していると感じている人は、わずか37%で、世界の他の地域の回答者の46%と比べて大幅に低くなっています。次に、チームがインシデントや機能停止をトリアージする際に協調性が高いと回答したのは、その他の地域では42%に対してAPACでは36%でした。

APACの組織は、両方の違いが統計的に有意であることを考慮すると、今日のクラウドネットワークとセキュリティチームがどのように協力しているかを注意深く評価し、改善された連携を促進するための手順があるかどうかを慎重に検討することが重要です。

以下のタスクを行う際のネットワークとセキュリティスタッフ間のコミュニケーションをどのように評価しますか？（「非常に協力的」と回答した人の割合）



クラウドイニシアティブを推進する際



■ APAC組織

■ 世界のその他の地域の組織



問題（機能停止、インシデントなど）をトリアージする際



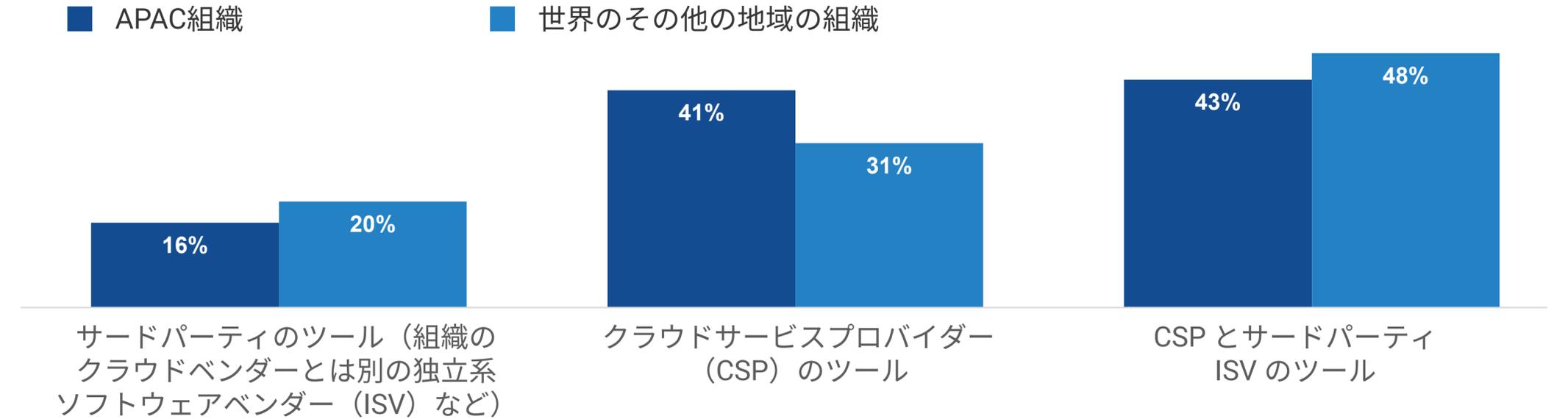
APACの組織はCSP固有のDDIツールへの依存度が高い

前述のように、Enterprise Strategy Groupの成熟度モデルは、複数のクラウド環境にまたがり、より包括的な可視性を提供し、管理者に統合された体験を与えることができるクラウドネイティブなネットワークソリューションの使用を推奨しています。

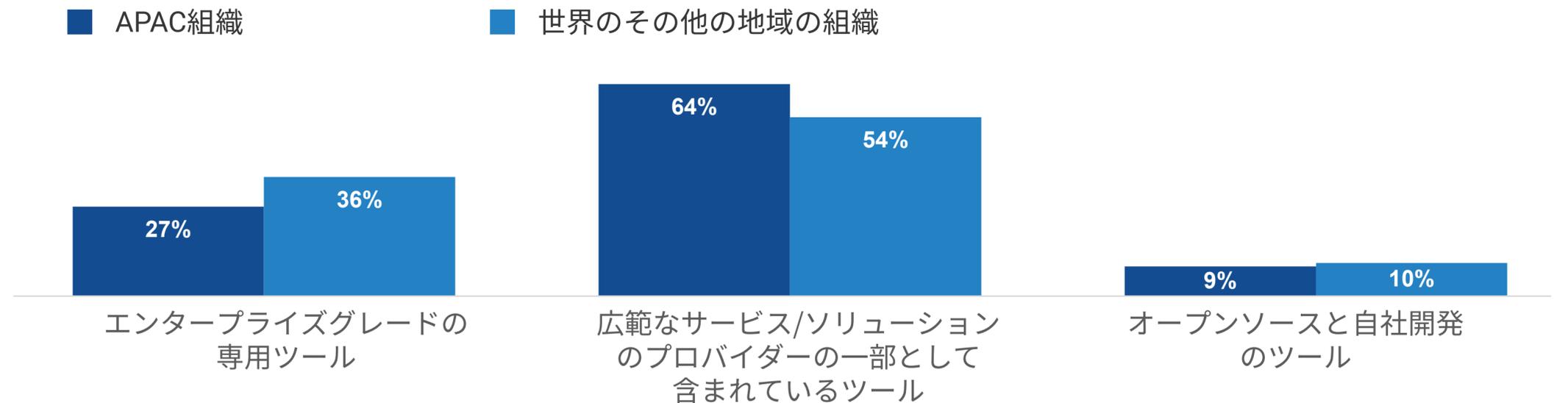
世界中の他の地域の回答者とは対照的に、APACの回答者は、使用しているDDI技術がCSPによって提供されたツールを使用していると報告する頻度が高くなっています（41%対31%）。さらに、APACの回答者の大多数は、サードパーティとクラウドが提供する両方のツールを使用していると回答していますが、どちらに**最も依存している**かを質問された場合、より頻繁に（64%対54%）、より広範なサービスの一部として「追加」されて提供されるツールに依存していると回答しています（真のエンタープライズグレードの機能を提供するツールとは対照的です）。

繰り返しになりますが、これらのデータから導かれる重要な点は、APAC地域の組織は、現在のクラウドネットワークツールを検討し直し、アプローチを適応させる必要があるということです。

組織の現在のクラウド環境向けDNS、DHCP、IPアドレス管理ソリューションを最もよく表しているのはどれですか？



組織がクラウド環境で最も依存しているDNS、DHCP、IPアドレス管理ソリューションについて最もよく表しているのはどれですか？



APACの組織はセキュリティの実現手段としてDNSをあまり積極的に活用していない

DNSを主要なセキュリティ制御手段として統合することは、幅広い脅威を防ぐ能力があるため、効果的なサイバーセキュリティ戦略として理にかなっています。セキュリティのユースケースにDNSを活用することで、組織はマルウェア感染、データ流出の試み、フィッシング攻撃など、ネットワーク周辺での悪意のある活動を効果的に検出し、阻止できます。さらに、DNSはネットワークのトラフィックパターンや異常な動作に関する貴重なインサイトを提供し、プロアクティブな脅威のハンティングと迅速なインシデント対応を可能にします。

しかし、データによれば、セキュリティのユースケースでのDNSの利用に関しては、APACの組織は他の地域の組織に遅れをとっていることがわかります。具体的には、世界の他の地域の回答者に比べて、ランサムウェアを検出するためにDNSを広範に使用しているとは言いがたく（46%対54%）、インシデント調査のツールとしてDNSを使用していると答えた割合は、大幅に低くなっています（44%対53%）

あなたの組織では、次の各セキュリティのユースケースでユーザーを保護するためにDNSをどの程度活用していますか？（「非常に多い」と回答した割合）

■ APAC組織

■ 世界のその他の地域の組織



マルウェア／ランサムウェアの検出・阻止



セキュリティインシデントの調査／対応／脅威ハンティング



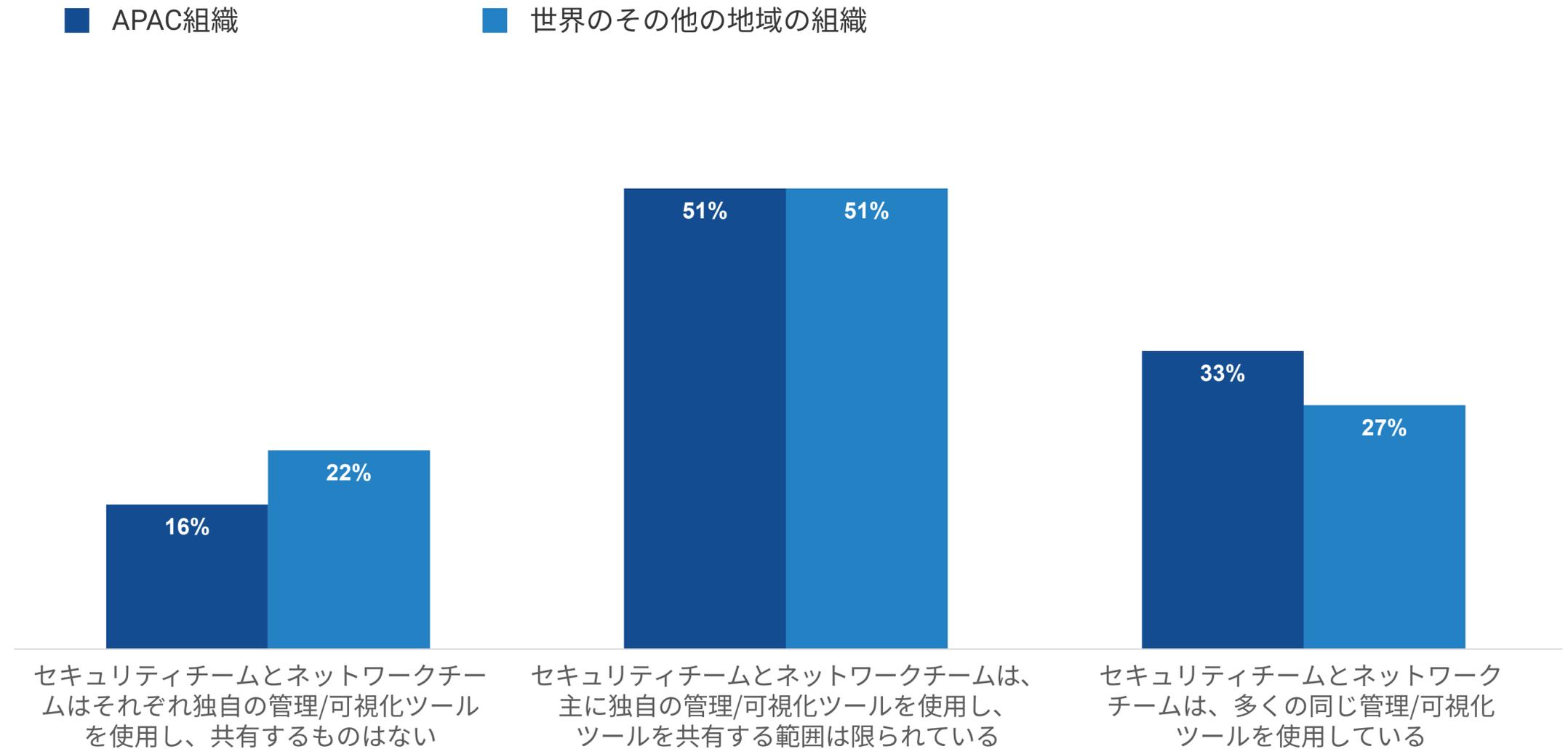
APACの組織は、クラウドネットワークとセキュリティの制御がサイロ化されているケースが少ない

成熟度モデルが評価するチーム統合の1つの側面は、ネットワークチームとセキュリティチーム間での共通ツールの使用です。共通のツールを使用することで、ネットワークチームとセキュリティチームは、同じデータを参照し、共通のインターフェイスで表示できるため、コミュニケーションが円滑化され、全体的な効率を高めることができます。さらに、統合管理ソリューションを活用することで、可視性と制御性が向上し、セキュリティインシデントとネットワークの問題に対してより効果的な監視と対応が可能になります。

この点では、APACの組織は、セキュリティとネットワークチームがそれぞれに独自の管理ツールを使用し、重複がないと報告する割合が世界のその他の地域組織よりもはるかに低く（16%対22%）、世界のその他の地域組織をリードしています。

ハイブリッドおよびマルチクラウド管理の成熟度という点では、どの組織にもまだ改善の余地がありますが、APAC地域の組織は世界をリードしています。

組織のネットワークおよびセキュリティチームがクラウドリソースを管理するために使用しているツールに関して、次のうち、最も当てはまるものはどれですか？





APAC の組織がハイブリッドおよびマルチクラウドの成熟度の向上に注力すべき理由

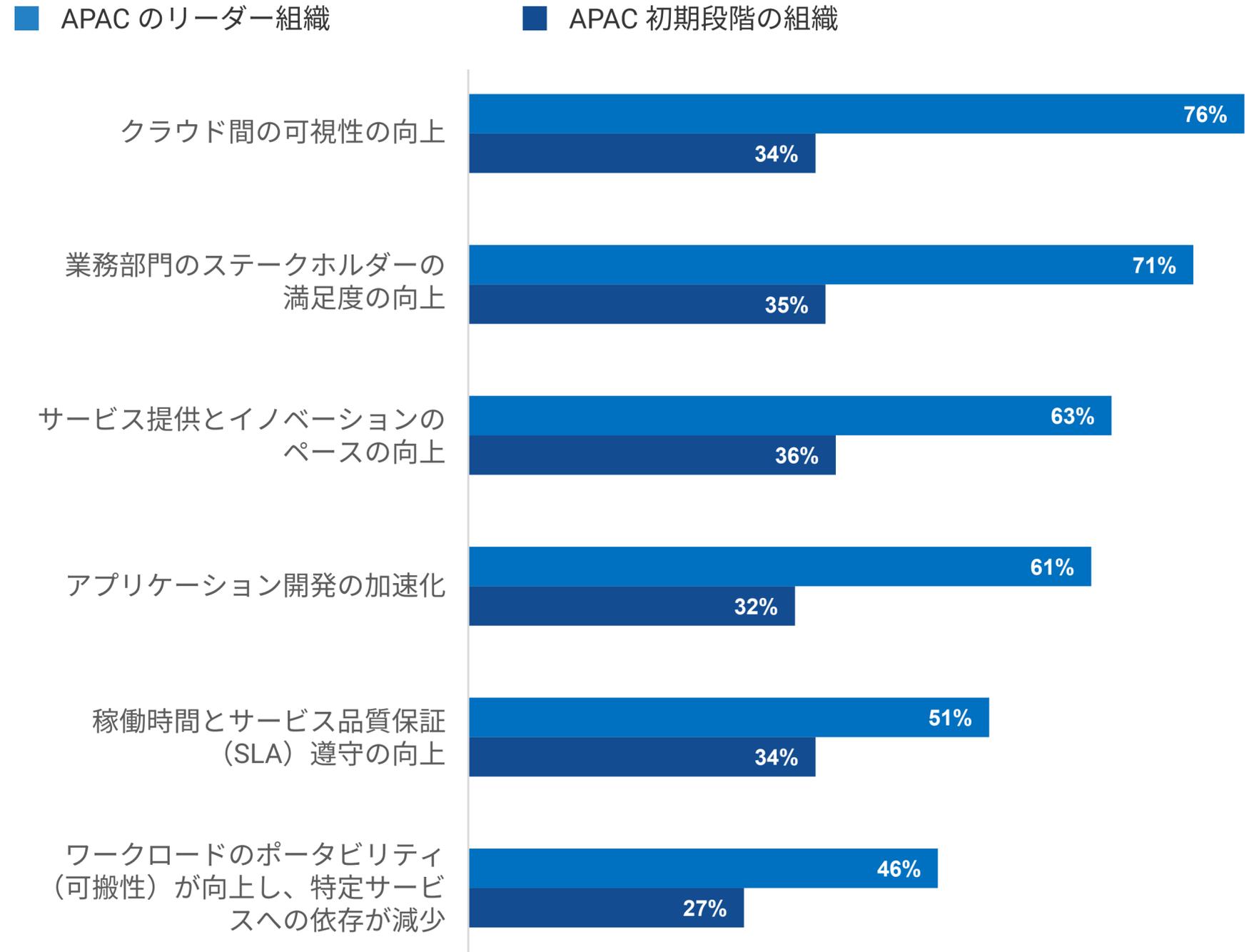
リーダー組織の技術投資はより大きな見返りをもたらす

この調査では、回答者に対して、クラウドネットワークとセキュリティ技術に対する組織のアプローチが、クラウドにおけるITOpsとSecOpsの成果を大幅に向上させていると思うかどうかを質問しました。

回答者は、「かなりそう思う」から「まったくそう思わない」までの範囲で回答を選ぶことができました。この質問への回答に成熟度モデルを適用すると、リーダー組織が技術投資からはるかに多くの恩恵を得ていることがすぐにわかります。具体的には、多くの回答者がクラウドネットワークとセキュリティ技術に対する自社のアプローチは、以下の点で重要だと回答しています。

- クラウド間の可視性の向上（初期組織の34%に対して76%）。
- 業務部門のステークホルダーの満足度の向上（71%対35%）。
- サービス提供とイノベーションのペースの向上（63%対36%）。
- アプリケーション開発の加速化（61%対32%）。
- 稼働時間とサービス品質保証（SLA）遵守の向上（51%対34%）。
- ワークロードのポータビリティ（可搬性）が向上し、特定サービスへの依存が減少（46%対27%）。

クラウドネットワークとセキュリティソリューションがそれぞれのメリットを大きく左右していると報告している回答者の割合。



アプリケーション開発の成果に関する詳細な調査

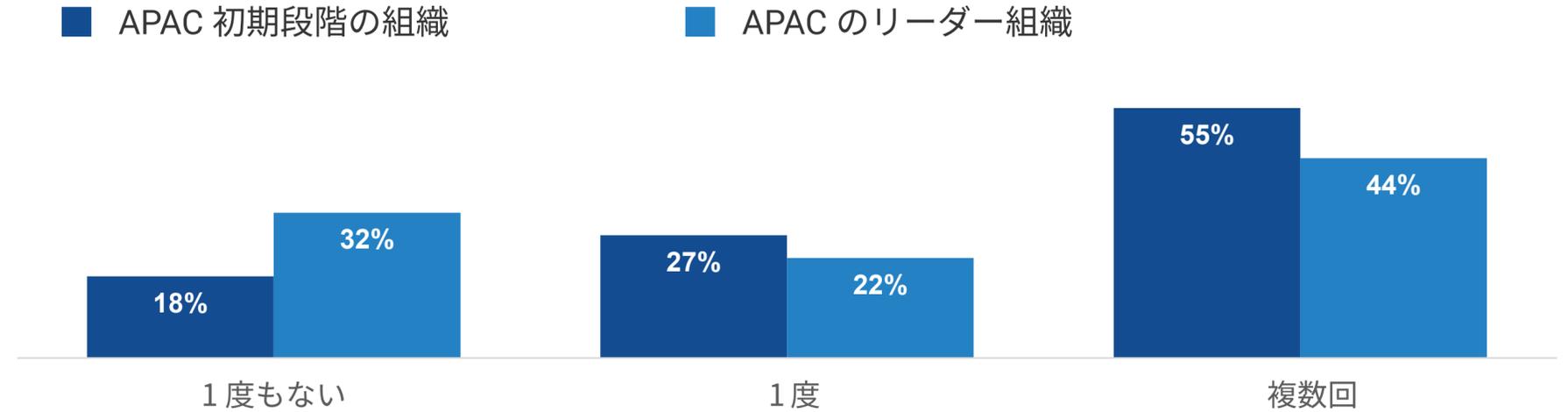
APAC 地域のリーダー組織の回答者は、クラウドネットワークとセキュリティソリューションがアプリケーション開発の成果の向上に役立っているだけでなく、その結果が成熟度の低い組織よりも客観的に優れていると述べました。

回答者には、IT チームまたはセキュリティチームがプロジェクトの基盤となるクラウドサービスを検査するためにより多くの時間を必要としたために、アプリケーション開発プロジェクトが過去 1 年間に延期された頻度を質問しました。リーダー組織の 32% は、IT チームまたはセキュリティチームが使用中のクラウドサービスを検査するのにさらに時間が必要だったために、開発チームの新しいアプリや機能の開発進捗が遅れたり中断されたりしたことはないと述べています。初期段階の組織のうち、同様に回答したのは、わずか 18% のみでした。

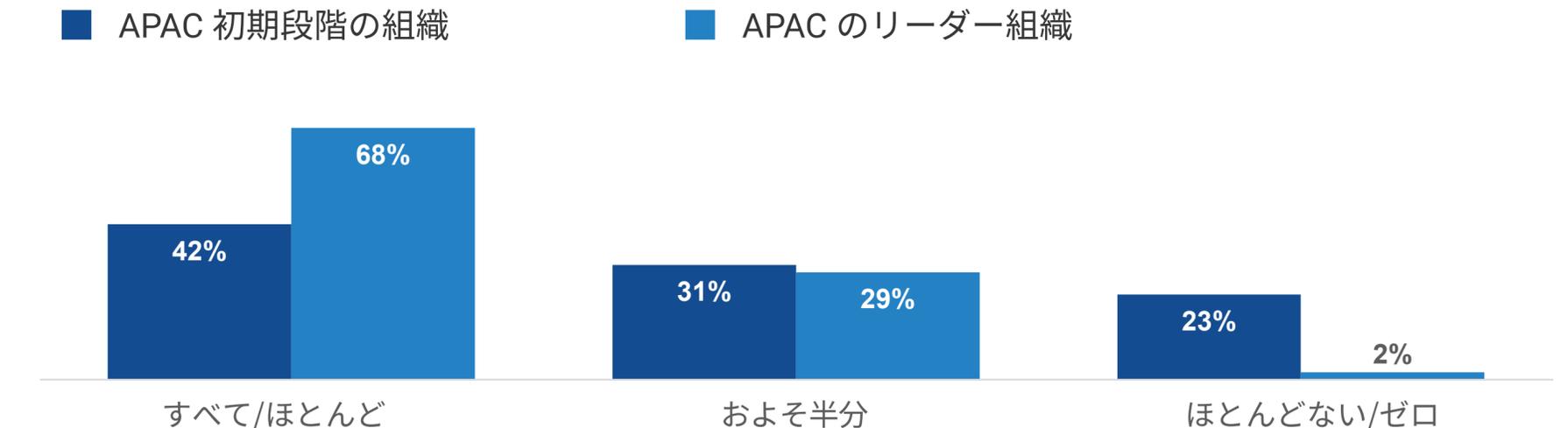
また、回答者には、社内で開発したすべてのアプリケーションにおいて、「オンデマンド」で本番環境に移行できるであろう、おおよそのコードの割合を質問しました。リーダー組織の 68% が、開発者はアプリケーションのほとんど、または、すべてのコードを本番環境にプッシュできると答えています（初期段階の組織は 42%）。

これらの証拠は、リーダーが開発チームを支援する準備がどれだけ進んでいるかを示しています。

過去 12 か月の間に、IT チームまたはセキュリティチームがプロジェクトの基盤となるクラウドサービスを検査するためにより多くの時間を必要としたために、アプリケーション開発プロジェクトが遅れた頻度はどれくらいですか？



社内で開発したすべてのアプリケーションにおいて、コードを「オンデマンド」で本番環境にプッシュできるのはどのくらいの割合ですか？



リーダー組織はより効率的で回復力のあるクラウド環境を備えています。

また、リーダー組織は、クラウド環境の費用対効果、信頼性、セキュリティに関して劇的に異なる結果を報告しました。



コスト効率

20.5%
大きく削減

すべての回答者に、自社のクラウド監視および可視化ソリューションがクラウドコストの削減にどの程度役立っているかを（それらのソリューションが導入されていない場合と比較して）質問したところ、リーダー組織は 20.5% 以上削減されていると回答しました。



耐久性の向上

ダウンタイムが
25% 減少

回答者全員に、過去 1 年間にクラウドでホストされているビジネスに大きな影響を与える可能性があるワークロードがダウンしたり、パフォーマンスが大幅に低下したおおよその回数を質問しました。これに対し、リーダー組織はインシデントが 25% 程度減少したと報告しました。さらに、事態が悪化した場合、リーダー組織は問題をより速く解決できます。数時間や数日ではなく、数分でサービスを復旧できると回答したリーダー組織の割合は、4.8 倍高い結果となりました（29% 対 6%）。



柔軟なセキュリティ

セキュリティワークフローを大幅
に加速させる可能性が 2 倍以上

セキュリティの観点から見ると、リーダー組織は、過去 1 年間で、疑わしい活動の検出（54% 対 21%）、それらの異常の調査（51% 対 20%）、実際の攻撃への対応（59% 対 29%）にかかる時間が大幅に短縮されたと回答する傾向がはるかに高くなっています。

リーダー組織は、ユーザーを満足させるソリューションで市場投入を迅速化

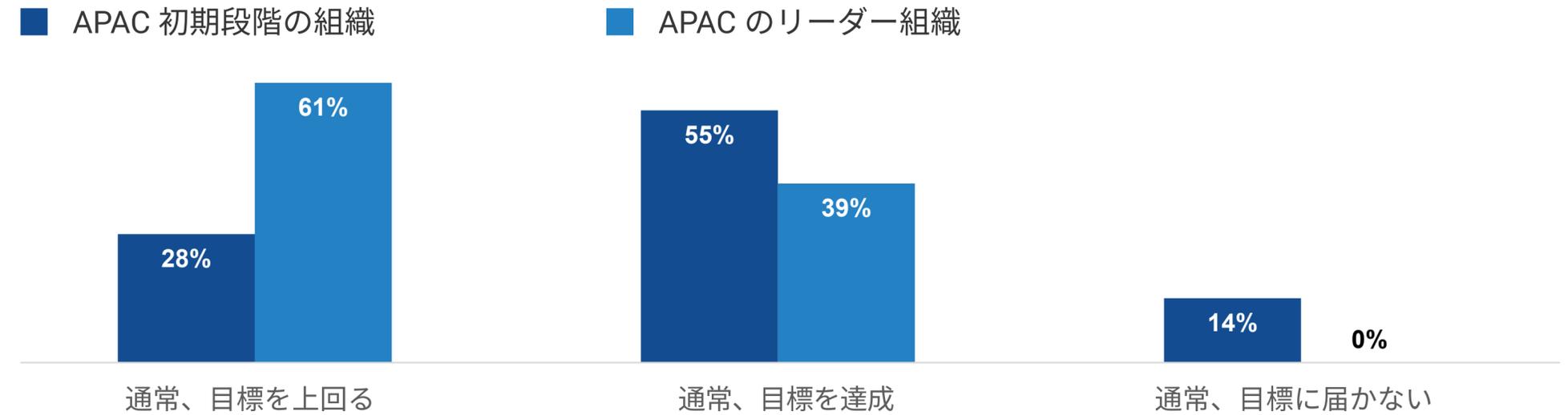
最後に、調査によると、リーダー組織が柔軟性と耐久性で優位に立っており、それが事業成功に直結していることを示しています。

すべての回答者に対して、市場投入までの時間に関してどのようなパフォーマンスを示しているかを質問しました。APAC地域のリーダー組織は、成熟度の低い同業他社よりも成功を報告する傾向がはるかに高くなっています。41%が、通常は市場の先駆者であると答えたのに対し、初期段階の組織ではわずか11%でした。

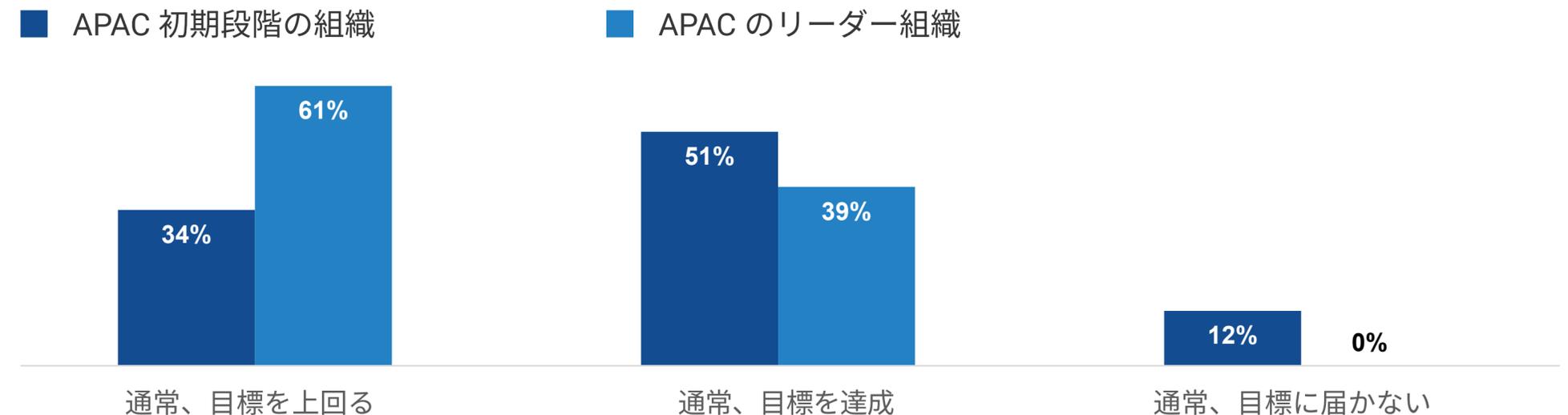
そして市場に導入されたソリューションは、ユーザーの期待に応えています。

- リーダー組織では、ITが管理するクラウドホスト型ワークロードに関して、従業員満足度の目標を概ね上回っていると回答する人の割合が2.2倍超でした(61%対28%)。
- リーダー組織では、ITが管理するクラウドホスト型のワークロードに関して、顧客満足度の目標を概ね上回っていると回答する人の割合がほぼ2倍でした(61%対34%)。

一般的に言えば、ITが管理するクラウドワークロードに対する従業員満足度という点で、あなたの組織はどのようなパフォーマンスを示していますか？



一般的に言えば、ITが管理するクラウドワークロードに対する顧客満足度という点で、あなたの組織はどのようなパフォーマンスを示していますか？



結論

APAC を拠点とする回答者からのデータを評価すると、2つのポイントが明らかになりました。1つ目のポイントとして、APAC 地域の組織は、世界中の同業他社と比較して、巻き返し半ばにあります。このギャップは克服可能である一方、共通して次の分野に現れています：チーム間の協力、クラウド全体での一貫性と完全な可視性を提供する DDI ソリューション、DNS を利用したセキュリティ運用の改善。2つ目のポイントとして、こうしたギャップを埋める努力は、この地域の組織にとって成果をもたらすことができる、ということです。この地域のリーダー組織は、自社のクラウド環境に関連する、技術的およびビジネス上の成果が劇的に向上したと一貫して報告しています。APAC 地域のクラウド戦略担当者は、投資に優先順位を付け、この電子書籍で説明されているハイブリッド、マルチクラウド管理の成熟度モデルに沿ったプロセスを確立することで成功に導かれるでしょう。

Infoblox がどのように役立つか

Infoblox はネットワークとセキュリティを統合して、比類のないパフォーマンスと保護を提供します。Fortune 100 社や新興のイノベーターから信頼されている Infoblox は、組織のネットワークに接続する対象や情報をリアルタイムで可視化し、制御することで、より迅速な運用と早期の脅威防止を実現します。

詳細情報

infoblox[®]



調査方法と回答者の人口統計

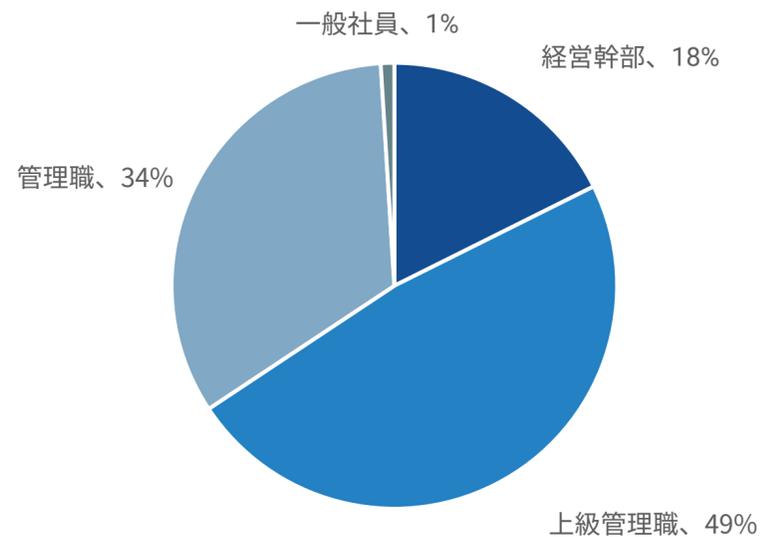
このレポートのデータ収集のため、Infoblox は Enterprise Strategy Group に委託し、組織のパブリッククラウド環境に精通した 1,000 人のネットワークとセキュリティの意思決定者と影響力のある人々を対象に総合的なオンライン調査を実施しました。

北米（米国、カナダ）、西ヨーロッパ（フランス、ドイツ、スペイン、英国）、アジア太平洋地域（オーストラリア、インド、日本、ニュージーランド、シンガポール）を拠点とする回答者を含む、世界中の民間および公共部門の組織が参加しました。調査は 2023 年 12 月 15 日から 2024 年 1 月 17 日の期間で実施されました。このサンプルサイズにおける 95% 信頼水準での誤差は、最大で 3 ポイントです。

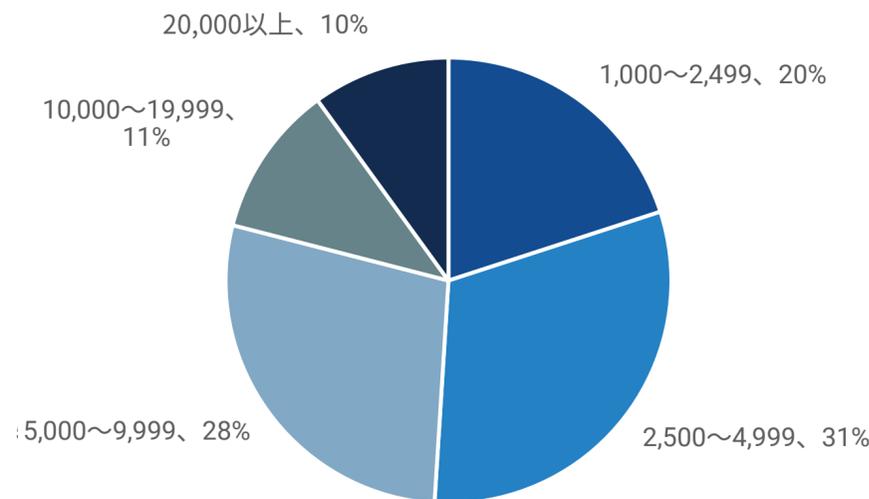
APAC 地域に拠点を置く対象 300 人の回答者の人口統計データはこちらです。

注：このレポート全体の数字と表の合計は、四捨五入の関係で合計が 100% にならない場合があります。

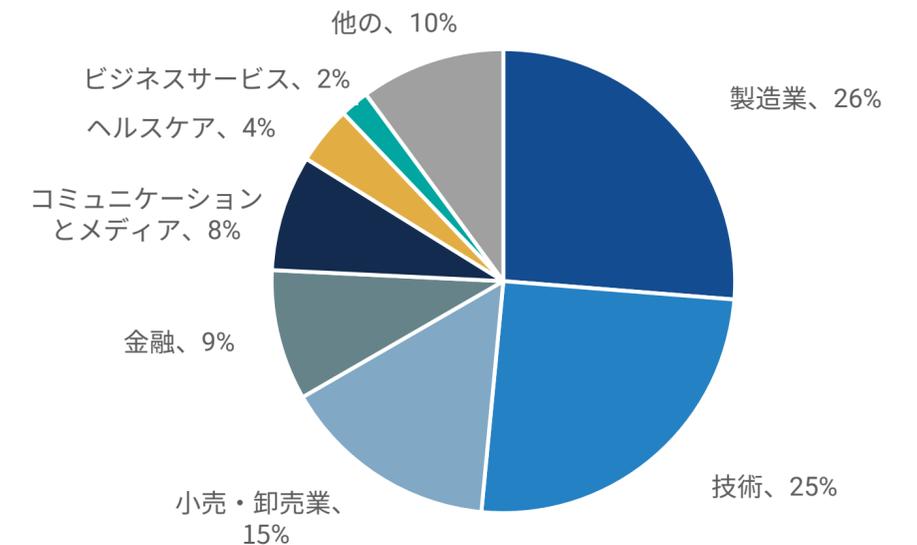
あなたの現在の役職・役位に最も近いのはどれですか？
(回答者の割合、合計300)



あなたの組織には、全世界で何人の従業員がいますか？
(回答者の割合、合計300)



あなたの組織の主な産業は何ですか？
(回答者の割合、合計300)



すべての製品名、ロゴ、ブランド、商標はそれぞれの所有者の財産です。この出版物に含まれる情報は、TechTarget, Inc. が信頼できると判断した情報源から入手したものです。TechTarget, Inc. によって保証されるものではありません。この出版物には TechTarget, Inc. の意見が含まれている可能性があります。これは変更される可能性があります。この出版物には、現在入手可能な情報に照らして TechTarget, Inc. の想定と期待を表す予測、見通し、およびその他の予測的記述が含まれる場合があります。これらの予測は業界の動向に基づいており、変数や不確実性が伴います。したがって、TechTarget, Inc. は、ここに含まれる特定の予測、予測、または予測的記述の正確性について一切保証しません。

この出版物の著作権は TechTarget, Inc. が所有しています。TechTarget, Inc. の明示的な同意なしに、この出版物の全部または一部を、ハードコピー形式、電子的、またはその他の方法で受け取る権限のない人に複製または再配布することは、米国著作権法に違反し、民事損害賠償および該当する場合は刑事訴追の対象となります。ご質問がございましたら、クライアントリレーションズ (cr@esg-global.com) までお問い合わせください。



Enterprise Strategy Group は、テクノロジー分析、リサーチ、戦略を統合して、マーケットインテリジェンス、実用的なインサイト、市場参入コンテンツサービスをグローバルなテクノロジーコミュニティに提供している企業です。

© 2024 TechTarget, Inc. All Rights Reserved.